

お知らせ

<2004年4月から2011年12月までに川崎医科大学附属病院呼吸器外科において原発性肺癌に対して手術（肺葉切除術）を受けられた患者さんへ>

2004年4月から2011年12月までに当院呼吸器外科で原発性肺癌のため手術を受けられた方の一部を対象として、手術前の胸部CT所見と行われた治療（手術の有無や手術術式）、切除肺の病理学的診断およびその後の経過を比較して、適切な治療方針や手術術式を探索するための検討を行っています。

近年の医療工学技術の進歩に伴い、CT画像はより鮮明なものとなり、その結果以前には見つけられなかったような小さな病変も見つかるようになっていきます。また、そうした小さな肺の病変が複数見つかることもしばしばあります。現在、原発性肺癌に対する標準術式は肺葉切除およびリンパ節郭清ですが、小さな肺癌（または肺癌が疑われる病変）が2～3病変同時に見つかった場合の治療方針や手術方法については明確にされていません。本研究では手術前の胸部CT検査で肺に複数の病変を認めた患者さんを対象として、胸部CT所見と行われた治療・手術術式、および病理診断との関連性を詳細に検討して、今後の肺癌の治療をより適切なものにすることが目的です。具体的には診療記録（カルテ）とCT画像、切除した肺癌の病理検査結果、再発の有無など術後の経過を照らし合わせることにより、適切な治療方針や切除範囲を検討します。なお、遺伝子の検索は行っておりません。本研究の結果は学会・論文等で報告する予定ですが、個人情報厳密に管理致します。手術を受ける際に「手術で採取された病理材料の取り扱いと医学教育・研究使用に関する説明・同意書」で同意を頂いている方が対象となりますが、同意を撤回される希望のある方や本研究に同意されない方は下記連絡先までご連絡をお願い致します。また、本研究は、学内研究費のみを使用する臨床研究であるため、利益相反は起こりません。

なお、この研究は川崎医科大学倫理委員会の審査・承認を得ていますことを申し添えます。

問い合わせ先：川崎医科大学附属病院 呼吸器外科 最相 晋輔

電子メール：gts@med.kawasaki-m.ac.jp

TEL：川崎医科大学病院代表(086-462-1111) 呼吸器外科実験室(内線 25519)

FAX：086-464-1124